

## 年金記録問題検証委員会（第8回） 議事要旨

1. 日 時 平成19年9月10日（月）13時から15時15分

2. 場 所 中央合同庁舎第2号館 第1会議室

3. 出席者

（委員会） 松尾座長、金田委員、川本委員、野村委員、東田委員、屋山委員  
五木田参与、碓井参与、清水参与

（総務省） 関行政評価局長、伊藤審議官 ほか

4. 主な議題

- (1) 社会保険庁の組織・人事関係
- (2) その他の調査の進捗状況
- (3) その他
- (4) 今後の進め方等

5. 会議経過

- (1) 社会保険庁の組織・人事関係に関し、社会保険庁の職員の体制等に係る本省調査及び管区行政評価局・評価事務所による社会保険事務局・事務所調査の経過報告等を踏まえ、人員の三層構造問題、職員団体の活動や各種の覚書・確認事項等が、年金記録の管理業務にどのような影響を及ぼしてきたか、今回の年金記録問題にどのようにつながってきたかという論点について、討議が行われた。
  - ・委員から、社会保険庁は、組織全体のガバナンスを背負って立つ人材を育ててこなかった、採用区分によりポストが固定化した結果、一体感のない組織になった、本庁は業務運営の大筋を示すだけで細部は地方の現場が独自の裁量で行っているが、地方も徹底的に自分の責任で行っているわけではなく、指揮監督が、国と地方のエアポケットになっていた等の意見があった。
  - ・調査の結果を踏まえて、三層構造問題や組合問題等と年金記録問題の関係を、さらに整理していくこととなった。
- (2) その他の調査の進捗状況として、事務局から、社会保険庁等が実施中の国民年金保険料等の市町村職員の着服事案に関する2次調査等について説明があったほか、検証委員会としても、市町村職員の着服事案について、事案を選別した上で市町村の協力を得て実地調査等を行う必要があり、方法等を早急に詰め実施することとなった。

参与から、年金記録管理システムについて、システム構築の手順やシステム計画段階での意思決定上の問題等について、意見があった。

- (3) その他として、事務局から、9月3日の第7回委員会以降の動きとして、「国民からの情報提供」の受付状況などについて、説明があった。
- (4) 今後の進め方として、委員の意見交換が行われた。
- ・最終段階を迎えるにあたり、これまでの週1回のペースでは間に合わなくなってきたことから、9月中に相当の日程を入れるとともに、予備日として何日か10月の日程も押さえておくこととなった。
  - ・今後について、ヒアリングや調査のとりまとめを続けながら、これまでの資料を読み込みつつ、報告の輪郭をイメージしながら精力的に討議を行うこととされた。

(文責 事務局)